

サイエンティフィックマテリアルズ・クリエイティング・オープンプラザSCOPの整備・拡大



東京農工大学

— 技術者育成キャリア開発による最先端機器の持続的拡充と高度利用体制の確保 —

実施機関：東京農工大学 協力機関：早稲田大学、電気通信大学、全国6大学大学院連合農学研究科構成17大学、東京都健康長寿医療センター研究所、東京工業高等専門学校、(株)リガク、東芝インフラシステムズ(株)、(株)堀場製作所、(株)三菱総合研究所

1. 5年後の「達成目標」、達成されたときの「姿」

姿①：持続的な自律研究基盤

運営資金の自己調達→利用料のほか民間企業から資金調達
高度専門技術職員の継続配置

姿②：技術職員による高度な研究支援（新たな人事制度）

テニュアトラック制による雇用→若返りと自己研鑽によるスキルアップ
人事評価制度の見える化→マイスター、管理職への登用
全国統一認定制度の構築→キャリアパスの明確化

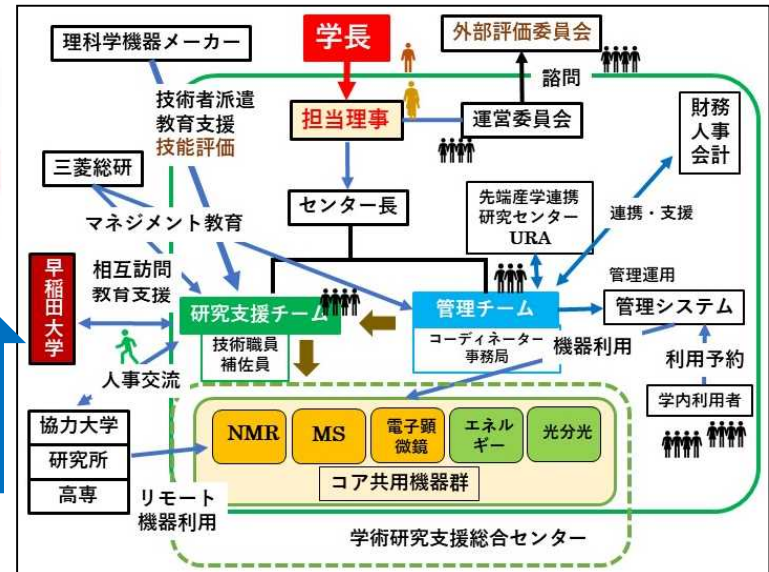
姿③：国内機器メーカーと海外研究機関をつなぐハブ機能

SCOPのありたい姿



SCOPの運営体制

学長直轄組織として**研究担当理事が統括**、研究支援チーム、管理チーム、外部評価委員会等を設置、**人事・運営資金を機動的に活用**



2. これまでの取組と解決すべき課題

解決すべき課題

- キャンパス毎の機器設置要求、部局ごとによる支援技術者の配置
- 技術職員の硬直化したキャリアパス、高齢化
- 最新最先端機器への更新

課題解決に向け既に始めた取組み

新たな組織運営、人材育成・人事制度のもと「Scientific-materials Creating Open Plaza」(SCOP)を学長主導で独自に設置
R2年12月より、全学の設備機器の高度共用利用体制、研究基盤の強化を図る

本事業による支援

3. 目標達成に向けての農工大の「持続的基本戦略」

